

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【公開番号】特開2014-76359(P2014-76359A)

【公開日】平成26年5月1日(2014.5.1)

【年通号数】公開・登録公報2014-022

【出願番号】特願2013-208471(P2013-208471)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/055 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 3 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月22日(2016.8.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

磁気共鳴シーケンスを用いた磁気共鳴装置による撮像方法であって、

k 空間の中心を含まない k 空間の第 1 領域が、k 空間の中心から出発する複数のスポークに沿って半径方向に走査されることによって、撮像部位に相当する k 空間が走査され、少なくとも 2 つの位相エンコード傾斜磁場が励起パルス (1) の印加前に既に完全に立ち上げられ、第 1 領域なしの残りの k 空間の第 2 の中心領域が、デカルト走査により走査され、コントラスト増強のために、それぞれ規定個数の個別測定の前に 1 つのプリパルス (3) が印加される磁気共鳴装置による撮像方法において、

k 空間の第 2 領域の測定点のうち、k 空間中心の直ぐ近傍に位置する少なくとも 1 つの部分が、中心測定点として、プリパルス (3) の最初の印加後に、撮像時に区別されるべき少なくとも 2 つの物質のうちの 1 つの物質のコントラスト用の磁化の零通過後に測定されることを特徴とする磁気共鳴装置による撮像方法。

【請求項 2】

中心測定点の測定が、プリパルスの印加後に、撮像時に区別されるべき少なくとも 2 つの物質のうちの 1 つの物質の T 1 を 1 n (2) 倍してなる開始時間 (1 0) 後に開始されることを特徴とする請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

先ず k 空間の中心に相当する中心測定点が測定されることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の方法。

【請求項 4】

k 空間の中心の直ぐ近傍に位置する n^3 個 ($n = 2, 3, 4$ 又は 5) の点が中心測定点として測定されることを特徴とする請求項 1 乃至 3 の 1 つに記載の方法。

【請求項 5】

中心測定点が、k 空間内のスパイラル状の測定軌道に沿って、k 空間の中心の直ぐ近傍に位置する中心測定点から出発して測定されることを特徴とする請求項 1 乃至 4 の 1 つに記載の方法。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 の 1 つに記載の方法を実施するように構成された制御装置 (1 4) を含む磁気共鳴装置 (1 1) 。